

Lab News

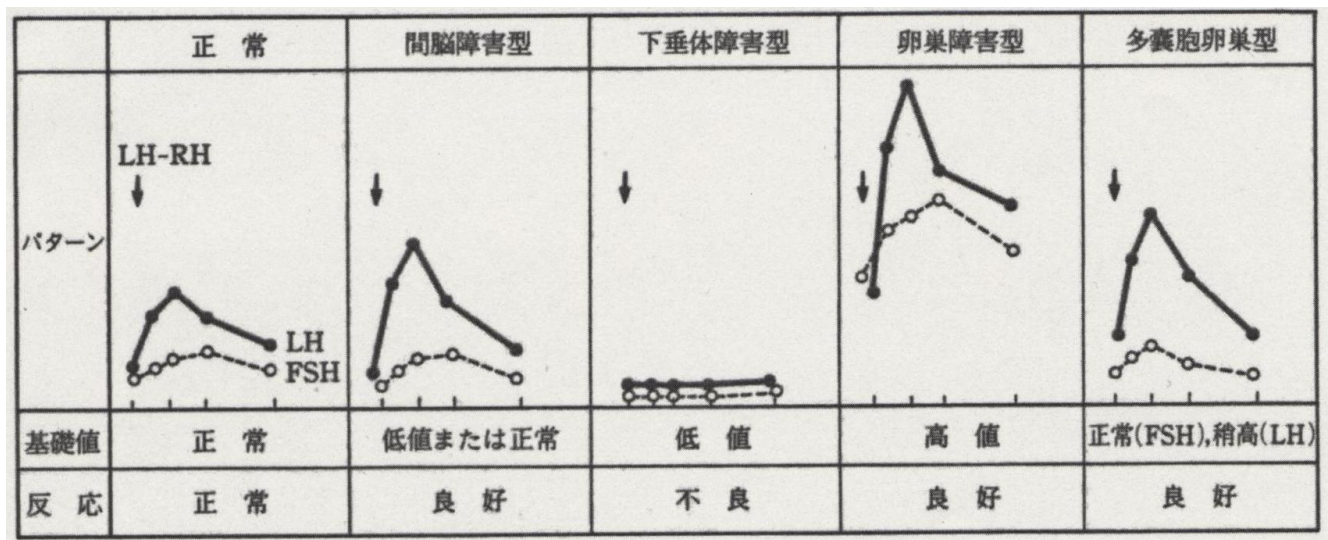
テーマ “不妊治療と臨床検査”

LH-RH テスト

女性が正常な月経周期を有するためには、間脳－下垂体－卵巣系(性腺系)の整順な機能が必要不可欠であり、性腺系は feedback 機構のもと内分泌学的平衡により保たれている。性腺系の器質的あるいは機能的な障害は、排卵障害や月経異常を惹起する。排卵障害は女性側の不妊原因の上位を占め、その原因として性腺系の異常によるものが多い。したがって、不妊治療において性腺系の障害の有無、一般的なものとしてさらに部位と程度を調べることは必要不可欠である。内分泌学的検査として血中の女性ホルモンの基礎値の測定と、LH-RH テスト(黄体ホルモン放出ホルモン負荷試験)などのホルモン負荷試験が行われる¹⁾。

LH-RH テストは、まず注射前(基礎値)に採血し、視床下部から放出される LH-RH ホルモンを注射する。その後 30 分、60 分後(反応値)に採血して、脳下垂体から分泌される LH(黄体化ホルモン)や FSH(卵胞刺激ホルモン)の量の変化を調べる。そして基礎値と反応値を組み合わせパターンより、どの部位に障害があるのかを判定する。この検査は LH、FSH が最も安定する月経開始 3 日目あたりに行う。

障害部位による LH と FSH の反応パターンを以下に示す(図 1)。



各種病態における LH-RH 分泌パターン (図 1)

<LH-RH テストのまとめ>

- 1) LH-RH テストは性腺系の障害の有無、さらに部位と程度を調べるために必要不可欠な検査である。
- 2) 基礎値と反応値の組み合わせパターンから、どの部位に障害があるのかを判定する。